

なんでも  
アナリストの  
つぶやき

## 日本の競争力を脅かす 「中国製造2025」

森田アソシエイツ 代表  
ワールド ゴールド カウンシル 顧問  
MSクレジットリサーチ 取締役・評価委員会議長  
森田隆大

2015年5月に中国政  
府が打ち出した国策「中  
国製造2025」は、経済成長  
及び産業育成を執行する柱の一  
つになりつつある。今年10月に  
行われた中国共産党第19回全  
国代表大会を開催するにあたり  
取りまとめられた(前回大会から  
の)進捗報告の中で、「中国製造  
2025」は国が実行した重要  
施策として取り上げられ、今後  
も中国の競争力を支えていく基  
幹として紹介された。また、さ  
まざまな会議や報告の中でも言  
及された。

「中国製造2025」は、20  
25年までに中国製造業の競争力  
を質と量の両面において世界の  
製造強国入りさせる重点政策が  
示されている。また、2035  
年までに製造強国の中程度の実  
力を目指し、2045年の建国  
100年時には世界の製造業を  
リードする地位を確保する目標  
が掲げられている。具体的には、  
産業構造改革、企業組織改革、  
経営改革、資源配分改革、研究  
開発改革、多分野技術融合改革、  
生産技術改革、品質改革、環境  
保全対策、人材改革等を基本に、  
10大重点領域・分野であるバイ  
オ薬品及び先端医療機器、新材  
料、農機、電力システム、省エ  
ネ・新エネ自動車、先進鉄道・  
交通システム、海洋開発設備・  
先進船舶技術、航空・宇宙シス  
テム、先進コンピューター・ロ  
ボット技術、次世代通信システ  
ムの世界競争力を加速的に高め  
る政策が示されている。さらに、  
自国の産業競争力の不足点につ  
いて、かなり正直かつ謙虚な分  
析が行われ、中国政府が他国製  
造業について相当程度の研究を  
行ったことが読み取れる。

筆者は日課として、中国の主  
要ニュースサイトをチェックし  
ているが、ここ1年は「中国製  
造2025」という文字を見な  
い日はない。中央政府や地方政  
府からの発表もあれば、企業発  
の報告も極めて多い。例えば、  
11月23日に国務院が発表した  
「中国製造2025国家モデル  
地域の創設に関する通知」(モデ  
ル地域を全国規模に推し進める方策、  
12月1日に広州市が「中国製造  
2025」を実施するために発  
表した「IAB計画」(次世代通信、  
人口知能、バイオロジ高度化計画)、  
11月27日に江西省が発表した  
「先端人材千人計画」(次世代技術  
を支える人材を国内外から新たに確保す  
る計画)など、中央省庁や地方政  
府が競って「中国製造2025」  
への対応策を打ち出している様  
子がうかがえる。政治的な思惑  
が背後にあるとはいえ、大多数  
の発表は具体的な方策や計画が  
盛り込まれ、ある程度の進捗や  
効果が担保されると思われる。  
こうした全国ベースの動きが活  
発に継続した場合、中国の産業  
競争力は加速的に上昇する可能  
性は極めて高い。

「中国製造2025」に挙げ  
られた10大重点領域・分野は日  
本が目指す競争分野と重なるた  
め、将来は間違いなく日本の強  
敵になろう。製造拠点、市場と  
してだけでなく、日本は中国を  
最重要競争相手として研究して  
対応策を考える時期が到来した  
のではないだろうか。

もりた・たかひろ

森田アソシエイツ代表。ファースト・シカゴ銀行を経て、1990  
年にムーディーズに入社。格付委員会議長、事業会社格付部門  
責任者を歴任。2016年よりワールド ゴールド カウンシル顧問。  
著書に「格付けの深層」など。埼玉学園大学大学院客員教授を兼任。